

学術講演会

①講演 テーマ「音声構造論から考えるシャドーイング」

講師: 峯松信明 13:30~15:00

(東京大学大学院・情報理工学系研究科・電子情報学専攻准教授)

<略歴> 1966年、兵庫県生まれ。高校時代に英語教師を志すも工学の道へ。東京大学大学院工学系研究科電子工学専攻博士課程修了。博士(工学)。豊橋技術科学大学助手を経て現職。2002年から1年間スウェーデン王立工科大学に在外研究員として滞在、現在の研究の着想を得る。人間の音声生成・音声知覚のしくみを物理学と認知科学の両面から解明し、人工的に実現する研究に取り組む。

講演概要:

音声の音響的特性は話者によって異なる。これは声道形状が人によって異なるからである。しかし世界の巨人／小人の発話を、我々は楽々と理解できる。音響的には大きく異なる音ストリームの中に、同一の情報を感覚する。このメカニズムを工学的に実装することを目的として音声の構造的表象を提唱している。音声を音色の変化パターンとして考えた場合、その音色の動きの中に、話者不変な形態(カタチ)を定義できる。これが構造表象である。音高の変化パターンがメロディーとなるように、音色の変化パターンを音声として捉えることに等しい。このような観点から音声を捉えると、音韻列としての音声表象は、あくまでも、文字言語を獲得した人間が「心理的に造り出す」イメージ(結果)として位置づけられる。音韻系列があたかも音声活動の前提として存在するかのような音声論は甚だ色あせて見える。本講演では、このような観点から発話を捉えた場合のシャドーイングの効用について、一つの考察を述べる。

<参考資料>

「人間に近づく音声認識」日経サイエンス6月号, pp.94-99, 日経サイエンス社 (2009-6)

http://www.gavo.t.u-tokyo.ac.jp/~mine/paper/PDF/2009/NK-SCIENCE_p94-99_t2009-6.pdf

②シンポジウム 15:30～17:00

テーマ「シャドーイングの効果とその評価をめぐって」

パネラー:

森庸子 (同志社大学・関西大学非常勤講師)・氏木道人(関西学院大学理工学部准教授)

三宅滋(関西学院大学院言語コミュニケーション文化研究科)

川崎真理子(関西学院大学院言語コミュニケーション文化研究科)

司 会:長谷尚弥 (関西学院大学理工学部/言語コミュニケーション文化研究科教授)

コメンテーター:峯松信明(東京大学大学院准教授)

門田修平(関西学院大学法学部/言語コミュニケーション文化研究科教授)

シンポジウム概要:

本シンポジウムでは、近年英語指導法として注目されているシャドーイングをテーマとしてその背景にある言語処理理論に触れ、その効果と評価方法に関してコメンテーターを交え議論する。森・氏木氏は、シャドーイングとリピーティングの再生率を比較した研究に基づき、シャドーイングの指導効果について考察する。また再生率の評価における問題点に触れる。三宅氏は、シャドーイングがL2学習者のプロソディーにどのような作用をもたらすのかを基本周波数の変化を通して考察する。また、シャドーイングの効果として言語材料の記憶(内在化)が期待できるものであるのか、その可能性について議論する。川崎氏は、読解における正書法処理レベルでの指導の重要性に触れ、音声言語を小さな単位に切り分け、文字と音の対応を知るための指導が日本人英語学習者に対してなされていないことを指摘する。また非単語音読課題等を使った実験より、日本人初級学習者が文字と音の対応に関して直面する問題について触れ、その観点でのシャドーイングの重要性と評価方法について触れる。

日 時:2009年9月20日(日)13:30～17:00

場 所:関西学院大学大阪梅田キャンパス 1405教室

参加費:JACET会員・言語コミュニケーション文化学会会員 無料

非会員500円/事前申込不要

JACET関西支部リーディング研究会

言語コミュニケーション文化学会

関西学院大学大学院言語コミュニケーション文化研究科

関西学院大学言語教育研究センター 共催

《問合せ先》

リーディング研究会代表 氏木(しき) 079-565-7028

言語教育研究センター 0798-54-6131